

大いなる飛躍へ

 JA上川中央

初春



2016

NO.94

発行・上川中央農業協同組合  
愛別町本町 125

Tel(01658)6-5315

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>

編集・営農部 営農振興課

1





# 新年にあたり

上川中央農業協同組合  
代表理事組合長 野 昇

組合員又御家族の皆様新年おめでと  
うございます。皆様におかれましては、  
輝かしい新年をお迎えのことと、心より  
お慶び申し上げます。また旧年中は、農  
協事業の運営に対し格別のご高配を賜  
りました事、衷心より厚く御礼申し上げ  
ます。さて昨年を振り返りますと、雪解け  
の早い春を迎え農作業が事の外早く進  
みました。しかしその後は低温と日照不  
足に悩まされ、一時出来秋を危がむ声か  
聞かれたものでした。その不安をかき消  
す様に、夏を迎えての高温は遜色のない  
実りの秋を届けてくれました。収穫時の  
長雨や10月の突風には見舞われました  
が、水稲に於いては作況指数104の結  
果となりました。うるち米に於いては、  
米市場での適正在庫を目指す動きの中  
で去年より高値で、又もち米は比較的安  
定した価格帯で推移しました。

一方大きな判断としては、長い歴史を  
刻んだAコープ愛別店上川店を閉じさ  
せて頂いたことが挙げられます。組合員  
の皆様には、ご不便をお掛けしたかと存  
じますが、農協の現在置かれた立ち位置  
を御理解いただいたものと考えており  
ます。地域経済の翼を担う農協として  
は、民間の違った視線の店舗にバトン  
を渡し、組合員の皆様のご不便を少しだけ  
でも緩和させて頂きました。

また農政に眼を転じますと、漂流しか  
かったTPP交渉での大筋合意が10月に  
なされました。重要5品目の取扱いや決  
着の内容が、果たして2013年の衆参  
農林委員会での国会決議に沿ったものか  
が物議を醸しました。国益を死守したと  
の総理や所管の大臣の談話が紹介され  
ました。しかし国民の目には、秘密裏に  
進められた交渉の落着いた所のごこに  
も、聖域と言いつ概念の片鱗を認めること  
が出来ませんでした。

今TPP交渉大筋合意後の諸対策が  
大綱となつて示されて来ています。この  
ことは、如何に大幅な対策が必要な合意  
であったかと言つ裏付けです。国会では  
平行して安保法案改正の動議で、連日論  
戦が繰広げられました。

するものと、強行採決され今日を迎えて  
います。主食のお米の消費量は一人当  
り60キロを切り、戦後の食生活からは想  
像も出来ない飽食の時代を迎えていま  
す。しかしこの日本の力ローベース換  
算の食料自給率39パーセントは誇れる  
ものではありません。言葉だけではない  
食育の国民的変革が叫ばれます。

第28回のJA北海道大会でのテーマ  
は「北海道550万人と共に創る「力強  
い農業」と「豊かな魅力ある農村」でし  
た。3年に1度のその熱気を農協の役職  
員は組合員とともに共有しなければな  
りません。農業所得の向上や新規担い手  
事業を充実させる方策にも、より強い牽  
引が求められます。これまでの固定観念  
からの新しい発想の転換も求められてい  
ます。食卓から消えた物を取戻し、世論  
が忘れ去ろうとした物と呼び戻す、地域  
農業を背負い立つ農業者である組合員  
との体化から新しい協同組合運動を  
再構築して行きたいと思ひます。

結びに組合員並びに御家族の皆様方  
のご健勝と、本年も天候に恵まれ、豊穡  
の秋を迎えることが出来ますよう、心か  
らご祈念申し上げ新年の挨拶と致しま  
す。

# 謹賀新年

代表理事組合長	野 昇
代表理事常務	木村悦明
理事	久保田幸夫
理事	大村正利
理事	辰巳眞
理事	清野英人
理事	岩城一憲
理事	山 中 護
理事	鉢 呂 悟
理事	青 木 光 晴
信用担当理事	奥 智 尚
兼金融部長	奥 智 尚
代表 監事	関 行 男
監 事	田 中 敏 明
員外 監事	奥 山 勲
内部監査室長	端 場 誠 二
兼総務部長	端 場 誠 二
総務 課長	奥 山 春 彦
金融共済課長	井 上 裕 也
営 農 部 長	鈴 木 隆 之
兼上川支所長	鈴 木 隆 之
営農販売課長	福 島 慶 喜
営農振興課長	須 賀 成 浩
購買 部長	松 嶋 光 章
購買 課長	竹 本 広 伸





# 平成二十八年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年の北海道農業は、一部地域において暴風雨被害が発生するなどの影響がありました。全体的にはおおむね順調な作柄となりました。皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年の11月11日に、組合員やJA役職員等、関係者の方々の参加のもと、第28回JA北海道大会が開催されたところです。

「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」をメインテーマとして、向こう3か年にわたるJAグループ北海道の対応方針を確認いただきました。組合員・JA・連合会・中央会が、

各役割を再確認した中で、JAグループ北海道の英知を結集し、基本目標の達成に向け取り組んでいくとともに、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指すこととしております。関係各位の特段なるご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

平成27年は、農協改革法案の成立、TPP交渉の大筋合意など、我が国の農業・JAにとって極めて大きな情勢変化があった一年でした。農協改革については、その主要な目的でもある法改正と農業所得向上の関連性などについて、いまだに十分な理解が進まない中、准組合員制度のあり方や監査の仕組みなどの重要案件が今後の検討課題となっており、改めて地域農業の振興や農協経営への影響がないうよう、政府に対する働きかけを含め、関連する取組みを進めていく必要があります。

一方、TPP交渉に関しては、交渉参加12か国の閣僚会合を経て、昨年の10月5日に大筋合意がなされましたが、守秘義務を盾に交渉に関する情報開示や国民的議論がないままに、大筋合意という結果に至ったことに対して、強い憤りを覚えるところです。

今後、通常国会においてTPP交渉に係る国会審議がなされる予定ですが、改めて、政府並びに各国会議員に対して、今回の合意内容の全容と影響、さらには国会決議との整合性について十分な説明責任を果たすとともに、生産者の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応がなされるよう強く求めていく必要があります。

世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で

食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

言うまでもなく、農業は、食料の安定供給という、国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫変わることはありません。

我々農業者・JAグループは、その責任感と自負心のもと、改めて協同の精神に立ち返った中で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合わせていくとともに、農業・JAに対する幅広い理解と共感を得る取組みを積極的に進めながら、長年にわたり先人が築き上げてきた本道農業並びに農業協同組合の基盤をさらに発展させ、後世に継承するよう、ともに頑張ろうではありませんか。

今年の干支は申年(さるどし)です。一説には、申は、伸ばすという意味があり、「草木が十分に伸び、実が成熟していく時期」を表しているとのことであり、今年、この申年にあやかり、天候に恵まれ実り多い充実した一年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。





JA YOUTH

# JA上川中央 青年部



愛別支部 部長

高田 峰雄

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。本年も無事迎えられたことを大変喜ばしく思います。

さて、我々青年部といたしましては、恒例となっている行事を中心に活動を行いました。町外視察研修では、北海道イセキ岩見沢本社にて新栽培技術や海外農機具の紹介をうけ、株式会社丹波屋ではアグリラボという実験農場を視察し病害虫に対する農業の効果や土壌診断の方法を学びました。きのこの里フェスティバルの百姓探炊きは、有料スペースへ無料配布する新たな試みに取り組みました。炊飯も作業分担の明確化や調理方法も見直し、例年以上の炊き上がりになりました。残念ながら悪天候に見舞われ売り上げは伸びませんでした。来年の30周年に向けてよい下地ができました。

他青年部との交流も引き続き行い、特に上川支部とはお互いの視察研修に参加し合う良い関係を築くことができました。支部の統合の是非は続いておりますが同じ農業者として良い仲間でありたいと願います。

さらに我々の上部組織であるJA上川管内青年部協議会では部員の成田真市君に副会長という大役を引き受けていただきました。各単組盟友から彼の人柄や活動に対する熱意に大変評価をいただいております。昨年11月13日に行われた上川地区JA青年部大会においては、愛別支部から応募した「農業の未来を信じて」が年間テーマとして採用され表彰をいただきました。

私は、今年度より部長を務めさせていただいており、就任の挨拶で「部員に必要とされる活動、参加者の増える活動」を目標に掲げましたが、力不足により十分な活動ができませんでした。現在青年部は、活動のマンネリ化、参加者の固定と組織としての課題を抱えています。今後の情勢として水稲に関して言えば、2018年度生産調整廃止、農地再編基盤整備事業、TPPと大きな変革の時期を迎えます。これまで以上に経営の手腕や生産技術の向上が求められることと思います。農産物についても、高品質が標準化し必ずしも良いものが高く売れるわけではないように感じます。

このような厳しさが増す時代だからこそ、情報の共有や刺激をしあえる場が必要だと思います。本来青年部とは、経営者や時期経営者の成長の場となるべき組織である以前先輩からお聞きしたことがあります。私は是非、青年部がそのような価値のある場となるようにしていきたいです。

農業は自然を相手にし、恩恵も脅威も受けませんがそれと糧とし、心を持って農業に向き合っていくべきだと思います。最後に、本年が組合員、関係各位の皆様にとって実り多き年でありますようお願いし、年頭の挨拶にさせていただきます。



上川支部 部長

渡辺 友章

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様と共に新しい年を迎えられたことを大変うれしく思います。

皆様方には日頃から青年部活動に対し、深いご理解と多くのご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、雪解け、田植え、播種作業と順調に進みましたが、直後から低温、長雨が続き先行きの心配されるスタートとなりました。その後、夏場は好天に恵まれた作物の生育状況も平年並みに回復しました。

そして、いよいよ収穫の秋となる10月には、2週間続けて暴風が吹き荒れ、作物の倒伏や施設の倒壊等の大きな被害がありました。このように昨年は天候の変化に大きな差があり、それに伴い農作物も比較的豊作だったものと、不作だったものと、隔たりのあった一年となりました。

また、数年来、課題の中心となっていたTPP交渉が大筋合意となり、今後の更なる農業情報の変化が迫ってまいります。

昨年の青年部活動は、上川支部内の交流を継続して行いつつ、商工会・自治労の各青年部と意見交換等を行い親睦も深めることができました。また、愛別支部とは、視察研修を互いに参加し合い、協力体制の強化ができました。

農業を取り巻く環境は、一層厳しくなりますが、我々青年部員は自分達で未来を切り開く覚悟と情熱を持ち、関係機関の皆様と団結して、農業を、そして日本を明るくしていければと思います。

最後に、部員並びに各関係機関の皆様には青年部活動への更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。本年が天候に恵まれ実り多い年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。





# JA上川中央 女性部



## 年頭のご挨拶

JA上川中央上川支部女性部

部長 柴田美代

新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた新春をご家族様おそろいでお迎えのこととお慶び申し上げます。

また旧年中は女性部活動に対して、組合員の皆様、ご家族、役員、関係機関の方々のご理解とご協力に深くお礼申し上げます。

さて昨年の活動を振り返りますと、冬の上川支部との合同宿泊研修、夏の劇団四季キャッツを鑑賞した一日研修、秋のBブロック研修など多くの部員の皆さんの参加・協力をいただき、『笑顔で楽しい時間』を共有する事ができました。

3年に1度開催されるJA北海道大会や全道の女性農業者が集まるリーダー研修などでは『時代へつなげる 明るい農業』などを見据えた、私たち女性部組織活動の必要性について改めて考える機会となりました。

一方、生活面ではAコープ愛別店の閉店は私たち農業者のみならず町民の大きなニュースとなりました。社会情勢においてはTPP交渉が大筋合意され諸対策が大綱として示されましたが、私たち農業者にとつての未来予想図は不透明で大変厳しい状況です。

農政への不安や女性部組織の全国的な部員の高齢化や減少による将来活動への不安など問題や課題が無いわけではありません。今後女性部として話し合いの場を増やし、皆様と力を合わせた組織活動に取り組んで行きたいと思えます。

本年も組合員の皆様、ご家族、女性部に携わって頂く方々が健康で豊かな一年が過ごせます様に、ご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。



## 年頭のご挨拶

JA上川中央上川支部女性部

部長 辰巳明美

新年明けましておめでとうございます。女性部の皆さまには、ご家族お揃いで健やかに新春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

昨年は閣僚会合においてTPP交渉が大筋合意に至りました。かつてない農畜産物市場の開放がなされる状況にあり、私たち農業者が希望を持って農業に従事できるのか、大きな不安を抱かざるを得ない状況です。

昨年度の活動を振り返りますと、3年に1度の「JA北海道大会」が開催されました。「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』」をテーマに、2300名の参加うち150名の女性部員の参加がありました。

そのなかで、JA北海道女性協議会副会長の青山伸子さんの意見表明があり、これからの農業を見据えるうえで非常に示唆的な内容でした。農村が抱える問題を農業者だけの問題とせず、北海道農業を支持してくれる様々な方々の声に耳を傾けること。

食農教育や消費者交流をより深化させ、「農」が「食」と「命」を育むことについてもっと理解してもらえるように情報発信を強化する予定です。女性部活動では、役員の担い手不足や部員数の減少などの問題について、新たな視点で事業をより魅力的なものに変える努力が重要であることなどをおっしゃっていました。

私たちは北海道という特別な大地で農業を営むうえで、550万人の道民から信頼を得るための努力を惜しんではならないと思えます。個人の小きな力をJAというひとつの「組織」に結集することで、多くの道民から支持される農業を展開することができます。またそのような「組織」に属しているからこそ、多様な活動を通じて人つくりや仲間つくりができます。

上川支部女性部が設立60周年を迎える本年は、改めて「組織」の重要性や部員一人ひとりが担うべき役割を再考する絶好のタイミングだと思います。

最後になりますが、どんな時でも「一粒の種を蒔き育てることが私達の生業」という本質を忘れず、本年も皆様と共に団結して厳しい農業情勢を乗り越えていけるようご祈念申し上げます。新年の挨拶に代えさせていただきます。





# 仲間と共に農業のスペシャリストを目指して…

イタリア ミラノ・ローマ海外視察研修参加報告(JA道青協)  
JA上川中央青年部 上川支部 佐藤 直哉



今回JA道青協の42回目の海外研修へ10月29日～11月5日の日程で、イタリア ミラノ・ローマに行かせていただきました。

① テヌータ・コロンバラ(稲作)  
1860年、大農場というより工場のような巨大な施設ができ、そこで地域の人々が働き、そこには年間2000tもの米が集まってきた。ヒエモンテ州は米で発展していった。

その後それぞれ経営者として独立、1935年に設立されたのがこの農場で農場内には稲作が始まった当時の様子や道具、施設がみられる博物館がある。

ここで生産された米は最高品質のリゾット用米「アクエレットロ」として販売され、有名レストランや高級スーパーやグルメに知られている。日本でも東京都内の高級イタリアンレストランで扱っている。



② フルット・ペルメツン農業協同組合  
この農場は4つの農家のグループにより設立され、15の農家により運営されている。現在は生産から加工、直売所やレストランと業容が拡大している。農場はEUの基準に沿った有機農法を用い、認可も受けている。

果樹は多品目ということで1年通じて生産され、野菜や穀物は生産加工にとどまらず、家畜のえさとしても用いる。また、家畜は肉として加工されるが、排泄物は野菜の肥料として利用する。よってこの農場は6次産業化+耕畜買型農業である。

③ 世界農業者機構(WFO-IOA)  
WFOは「農家による、農家のための」国際的農業協会である。ここローマに本部をもち、現在日本を含めた世界50か国が加盟、70の団体により組織されている。日本からは、JA全中、全国農業会議所等が組織の員になっている。先進国、途上国問わず、各国の農業組織を束ね、農家をサポートする、特に小規模農家に焦点を当てていくことを目的にした組織である。世界の農業者を代表して国際的な会議やフォーラムにおいて、集約された農家の意向や関心ことを代弁し、極端な価格変動、市場における影響、即時の市場情報へと農家の大きな力になっている。

④ アグリコルトゥラ・ヌオバ  
1977年に設立。元タローマ市にはアパート建設計画があつてそれに反発した若い失業者たちが土地を占拠し、始めた農場である。現在では約35名のスタッフで約250haの農場を経営するまでに成長した。35名のスタッフのうち約30%が身体に障害のある方々で社会的協同組合としての位置づけもある。また他の州の有機農業協同組合と連携し、作物や技術の交換をし、直売所やレストランで提供している。



⑤ トリオンファレ市場  
この市場の歴史は古く、ローマ最古のマーケットと考えられている。

元タメインストリートに沿って店が並んでいた屋外市場だったが、2009年に見直され、現在は建物内に273店舗入る屋内市場になっている。

今回の視察でまず感じたのは6次化している農場がほとんどだったこと。農場で生産された作物を加工し、農場内の直売所で販売、レストランで提供するという

すべてを自分でやっていた。また、耕畜買型。化学肥料は切使わずに飼育している家畜で賄う。環境のことも考えた今の時代に心ざわしい農業をしています。

上川町を見ると耕畜買で経営している農家はほとんどいない。せんが、稲作と畜産、酪農農家が共存しているため耕畜連携は可能であると考えます。うまく連携すれば環境に配慮した独自の地域農業になると思います。

WFOでは①若い農業経営者は政策にとらわれず、常に改革を頭に置き、競争、勉強すること。②改革に目を向け、スペシャリストになる。それが北海道の目指す道だと示していただきました。北海道の農業経営の単位は国内では大きいですが世界から見るとまだまだ小さい。ヨーロッパの小規模農家には特徴を持ったスペシャリストがいます。

刺激を受けた反面、農業が置かれている状況は日本も世界も変わらないこともわかりました。農業人口の低下や高齢化は世界共通の問題です。また先代より受け継がれてきた農業を未来へ継承していくことも課題の一つです。そこで日本では小学生など食育活動が広まってきたり、実施している地方公共団体も少なくありません。世界で見るとまだまだこれからは日本が進んでいることに驚きました。日本も負けてはいないと実感しました。

そして今回の視察を共にした同じ志を持つ仲間に出会ったのが一番の収穫でした。道内各地に仲間がいることは時に励まし、時に刺激をもらってお互いが切磋琢磨できる。このつながりを大切に、それぞれがこれからの農業をささえていけるスペシャリストになりたいと思います。

最後に、今回の海外視察に際しまして、上川町はじめJA上川中央青年部上川支部の多くの方々から多大な支援をいただきましたことをお礼申し上げます。簡単ではありますがありますが報告とさせていただきます。







## 支部同士の交流も… JA上川中央青年部上川支部町外視察研修開催される



11月16～17日に札幌方面にてJA上川中央青年部上川支部視察研修を行いました。今回は愛別支部からも5名の参加をいただき総勢13名の参加となりました。

1日目には雪印メグミルク資料館で乳製品の歴史を学び、カツゲン神社で必勝祈願!?し、午後からはホクレン農業総合研究所で農総研の概要からもち米の品評評価や残留農薬について、また加工については実際に冷凍食品用南瓜の試食もさせていただきました。各分野で活発な質疑が飛び交い、予定していた時間を超えるほど有意義な時間となりました。

2日目には酪農学園大学と宝水ワイナリーを見学しました。酪農学園大学では、牛舎や動物病院まで構内の施設を見学させていただき、バイオガスプラントや搾乳ロボットなど興味をひくものばかりでした。

今回は同年代の参加部員が多く、JA上川中央の農業の未来など熱く語り合うことができ、担い手同士の交流を深め、意識を高め合うことができました。

## 情報の更なる徹底した管理を… 平成27年度コンプライアンス研修会開催される

平成27年11月26日に、平成27年度コンプライアンス研修会が愛別町蔵らにおいて開催されました。

本年度は、JA北海道中央会旭川支所へ講演を依頼したところ、次長の長縄道弘氏が講師を務めていただくこととなりました。

講演では、『マイナンバー制度の概要と個人情報保護法対応の徹底について』をテーマとし、新たに施行されたマイナンバー制度に対する取り扱い方法や、個人情報保護・情報セキュリティの再確認を丁寧に講演していただきました。

出席した役員並びに職員は、マイナンバーの取り扱いに対する難しさや個人情報との違いを認識し、更に個人情報・情報セキュリティに対する意識を高める研修会となりました。



長縄氏

## 27年産そ菜生産を振り返って 愛別町そ菜振興協議会・上川町畑作園芸振興会合同作況反省会開催される



12月8日、愛別町そ菜振興協議会・上川町畑作園芸振興会合同作況反省会が生産者26名と市場および日頃よりお世話になっている関係者も招き、上川支所で開催されました。

反省会では、市場関係者から平成27年度の出荷実績をもとにした今後の販売動向、ホクレン旭川支所から大豆の販売概況、上川農業改良普及センターから気象経過を踏まえた生育分析と今後の課題についてお話しいただきました。

青果全般で平均単価は前年以上となりましたが、面積の減少・低温や長雨などの不順な天候により数量はやや減少しました。

28年度は高品質なそ菜の安定生産に努めていきます。





## JA女性 心ひとつに今をつむぎ 時代へつなごう! 平成27年度 JA上川地区女性部研修大会へ参加

12月11日、JA上川地区女性部研修大会が旭川グランドホテルで管内各地から約120名が集まり開催され、当女性部からも8名が参加しました。

『JA女性 心ひとつに今をつむぎ 時代へつなごう!』をメインテーマに大会が行われ、講演では「魅力ある話し方について」と題しラジオパーソナリティーのマダムケロコ氏による笑いあいの楽しい講演が行われ、他にも読み聞かせやハンドメイドのくるみボタンバッチ作りなど有意義な研修会となりました。



### するーらいフ 穏やかな日々

北海道新幹線が今年3月、ようやく青函トンネルを抜けて新函館北斗駅にやって来る。

道北で生活をしていると新幹線との触れ合いは先ずない。その流れるようなデザインの車両には、独特のわくわく感がある。しかしいざ乗車してしまうと、周りの景色を楽しむと言う車両ではないことに気付く。運行中の騒音に対して、沿線への配慮から必然的にトンネルが多くなる。これは時代の欲求と利便さの追求から産まれた所以の哀しさである。

最近、帯広市幸福駅を訪ねた。勿論廃線になったJR広尾線の旧駅である。その駅舎の前にはメッセージを書いた「幸福ゆき」の切符が重なるように貼られている。冬の訪問客は少ないスポットなのだろう。閑散としたもの悲しさを覚えた。子供達に記念切符のキーホルダーを買い求めたが、果たしてこの贈り物を喜ぶ歳を、遥かに過ぎていたと思ったものである。調べてみると、熊本県球磨郡あさぎり町免田にも、くま川鉄道「おかどめ幸福駅」が現役駅として愛されていると言う。

弘安の役(1281年)の蒙古襲来の際、地元相良一族を出征させた時、いわゆる神風が吹いて勝利をもたらした、幸福をもたらしたと言う。その時に祈願尊崇されたのが岡留熊野座神社である。神社をあしらった瓦葺屋根の駅舎は、旅人にひと時安堵感をあたえる。

もう55年程前の思い出である。九州長崎本線佐賀駅から玄界灘を臨む唐津の町に、兄妹と出かけた。佐賀駅の隣の久保田駅で分岐し唐津線となる。当時は豪快な蒸気機関車だった。長い鉄路は山の中を抜けて行くのである。還暦を過ぎた頃から急に、煙を吐きながら重量感のある走りをした列車の雄姿と、姉の姿を思い出すようになった。その時に姉が着ていたワンピースの柄まで思い出す。

トンネルが近づくと列車の窓を閉めた。石炭の臭いまでがどこかに残っている思い出である。舞鶴公園の大きな座石に二人座った写真が残る。遠くには虹ノ松原が映っている。

今は天守閣も再建されたが、その後唐津の町を姉と訪ねたことはない。呼子は朝市などが開かれ魚料理も人々を唸らせる。しかし、姉達とそこを訪ねたものかどうが、記憶は遠のいている。ただただ豪快な蒸気機関車の汽笛の音や、トンネルを間近にした時の緊迫感だけが強烈に記憶されている。その思い出話を姉にしたことはない。もし話をしても、彼女の記憶に、唐津の思い出や蒸気機関車のことが残っていないことを想像してしまうのである。学生時代、東北を横断するように列車を乗り継いで、仙台から天童・山寺そして日本海の町を訪ねた。ローカル線の乗客の東北弁での会話が、一人の旅を和ませてくれた。時間の流れが緩やかだったことが、思い出を増幅させた。窓の外の景色をゆっくり眺められたことが、印象を更に強烈にした。

新幹線の旅とは又違った、良き時代の帰らぬ思い出である。昭和53年刊行の宮脇俊三が書いた『時刻表2万キロ』を読むと日本の鉄道の旅に心が動く。今となっては贅沢な旅を経験したものである。





**注意!**

## マイナンバー制度に便乗した 不正な勧誘や個人情報の取得にご注意ください!

〈このような電話などに注意してください!〉

- マイナンバーの通知や利用、個人番号カードの交付などの手続きで、
  - ・国の関係省庁や地方自治体などが、口座番号や口座の暗証番号、所得や資産の情報、家族構成や年金・保険の情報などを聞いたり、お金やキャッシュカードを要求したりすることは一切ありません。
  - ・ATMの操作をお願いすることも一切ありません。
 こうした内容の電話や手紙、訪問には応じないでください。
- 電話、メール、訪問などにより、マイナンバーの安全管理対応の困難さなどを過度に誇張した商品販売や不正な勧誘などには十分注意してください。
- マイナンバーの関連であることをかたったメールが送られてきた場合、自分の勤務先など送付者が明らかなものを除き、安易に開封しないよう、注意してください。
- 「なりすまし」の郵送物にご注意ください!
  - ・個人番号カードの交付申請の返信用封筒には、顔写真や個人情報を含んだ申請書を入れて、返信いただくことにしています。返信用封筒の宛先が「地方公共団体情報システム機構」であるか、ご確認ください。個人番号カードの交付申請書に口座番号などを記載することはありません。
- 「あなたの名前やマイナンバーを貸してほしい」といった依頼は詐欺の手口です。こうした手口で、人を欺くなどして、他人のマイナンバーを取得することは法律により罰せられます。なお、不正な提供依頼を受けて自分のマイナンバーを他人に教えてしまっても、刑事責任を問われることはありません。

《マイナンバー制度全般のご相談はこちら》  
マイナンバー総合フリーダイヤル  
0120-95-0178

## 農林水産省や都道府県から補助金が得られるという 表現を用いた農業施設への投資の勧誘にご注意ください!

就農希望者に対し、

- ・農業施設の導入に対して農林水産省や都道府県から補助金（次世代施設園芸導入加速化支援事業や青年就農給付金など）が得られる
- ・補助金の申請は代行する

などとして、農業施設への投資を勧誘する事業があるとの情報が寄せられました。

次世代施設園芸導入加速化支援事業は、施設園芸の拠点の整備を支援する事業であり、既に採択は終了し、今後追加する予定はありません。

採択済みの10拠点については、施設の整備費用の調達が確実であることを条件に採択しており、事業実施主体が当該施設の整備費用に係る投資を勧誘することはありません。

また、青年就農給付金は、新規就農者の経営安定のために支援するものであり、就農希望者ご本人が都道府県や市町村に直接申請を行う仕組みとなっております。

上記事業の補助金や給金が得られるとして農業施設などへの投資の勧誘を受けた場合には、市町村又はJA営農振興課までお問い合わせください。

農林水産省のホームページに注意喚起が掲載されていますので、ご覧ください。  
掲載URL：[http://www.maff.go.jp/j/new\\_farmer/151028.html](http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/151028.html)



JAのあゆみ 12月

- 1日 第3四半期監査(〜4日) 農協懇談会(JA女性部)
- 2日 農協懇談会(愛別地区耕種)
- 3日 農協懇談会(愛別地区きのこ・畜産)
- 5日 農協懇談会(上川地区全体)
- 8日 愛別野菜振興協議会・上川町畑作園 芸振協会合同作況反省会
- 9日 愛別町農業青色申告会 税務研修会 農家経済対策委員会
- 11日 JA上川地区女性部研修大会 愛別町農業者年金協議会 代議委員会・研修会
- 14日 上川地区連合会・農事組合長合同会議
- 15日 旭川東青色申告会連合会農業部会総会 定例企画会議
- 21日 愛別町農業青色申告会 年末調整記帳講習会
- 24日 愛別町農業再生協議会止副会長会議
- 25日 第11回定例理事会
- 28日 愛別町農業再生協議会止副会長会議
- 30日 上川町法人会合同忘年会
- 31日 給油所 仕事納め

組合員のうごき

(平成27年11月26日現在)  
 正組合員戸数 380戸  
 総組合員数 2,636名  
 正組合員数 591名  
 うち団体数 34団体  
 准組合員数 2,045名  
 うち団体数 71団体

第10回定例理事会

平成27年11月26日開催

- 1 報告事項
- 2 組合員の脱退について  
6件の脱退について報告した。
- 3 各委員会の報告について  
第6回農家経済対策委員会並びに第4回営農経済専門委員会の開催内容を報告した。
- 4 内部審査協議会監査の結果について  
本支所の営農振興・営農販売で実施された内容について報告した。
- 5 反社会的勢力等との取引排除に係る顧客属性システムによる定期確認の報告について  
調査結果について内容を報告した。
- 6 固定資産の取得について  
本所22号倉庫の雪止めについて取得内容を報告した。
- 7 組合員の相続並びに譲渡について  
相続1件譲渡1件について承認された。
- 8 組合員の加入報告並びに組合員資格について  
3件の加入が承認された。
- 9 組合員の出資減口について  
2件の減口が承認された。
- 10 第3四半期見直し計画について  
見直し内容について説明し承認された。
- 11 支給基準について承認された。
- 12 農事組合活動助成金等の支出について  
活動助成等の単価について承認された。
- 13 資金の融資について  
短期2件・長期1件の融資について承認された。
- 14 平成27年産飼料用米に係る仮渡しについて  
平成27年対象数量に対する仮渡金について承認された。
- 15 ハウスリース資産の取得並びに貸付について  
2件に対する取得並びに貸付が承認された。
- 16 酪農畜産支援助定事業利用額の変更について  
2件に対する利用額変更が承認された。

精米所よりお知らせ

年末年始の営業につきまして、12月号で掲載させていただきましたが、改めてお知らせいたします。

- 12月30日(水)  
12:00まで  
(1月3日まで休業します)
- 1月4日(月)  
16:30まで  
(5日より通常営業となります。)

1月29(金)・31日(日)棚卸による営業時間変更のお知らせ

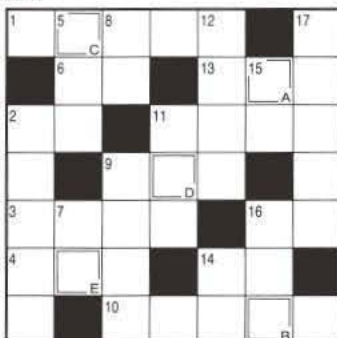
事業年度末の棚卸業務により、営業時間を変更させていただきます。皆様に不便をおかけしますが、ご理解よろしくお願い致します。

- 1月29日(金)  
・資材店舗(本所・支所)・農機センター  
休業
- 1月31日(日)  
・ホクレン給油所(愛別・上川)  
8:00～17:00 短縮営業

今月号の表紙

大雪山の日の出  
(菊水旭ヶ丘地区)

パズル? 頭の体操



タテのカギ

- 2 首に掛けるアクセサリー
- 5 髪はここを中心に洗えます
- 7 釣り人がじっと眺める物
- 8 安倍川にしますか、砂糖じょうゆで食べますか
- 9 色が白っぽい——そばは、ソバの実の中心部分をひいた粉で作ります
- 11 屋外で写生するときの机代わり
- 12 CDとも呼ばれるコンパクト——
- 14 跳まくりするとき折る物
- 15 イチカバチかの大きな——に出た
- 16 土を踏って造った古代の権力者の墓
- 17 ある限り全部の物

ヨコのカギ

- 1 新年に神社へ出掛けて済ませます
- 2 ドライバーで轉める物
- 3 解着用の紙の——を文字で埋めた
- 4 年表を見ると概要がつかみやすいかも
- 6 騎手が馬に入れる物
- 9 サハラ、ゴビ、タクラマカンといえば
- 10 受話器を離さずに延々と続けます
- 11 自動車の燃料タンクが空っぽの状態
- 13 ——心頭が発する
- 14 父や母の、父
- 16 古い石碑に生えることもあります

パズル? 頭の体操

先月号の答え



解答 A B C D E  
ト シ ノ ク レ